

<調査対象>

◎調査期間：平成28年7月下旬～平成28年8月上旬
 ◎調査対象：当会情報連絡員（業界組合）58団体

（回答 43団体 ・製造業：31団体中22団体
 ・非製造業：27団体中21団体）

<結果のポイント>

(1) 4月の採用実績について

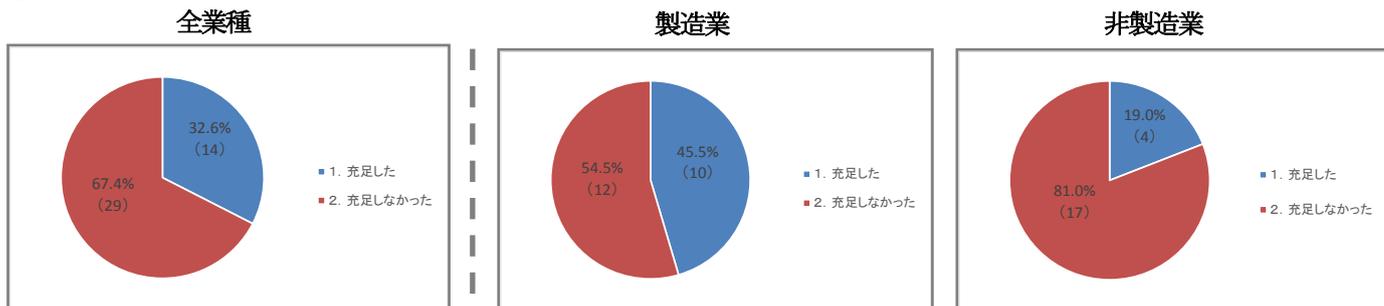
有効求人倍率は昨年度から高水準を維持し、県内の雇用失業情勢は着実に改善しているとのことだが、毎月の景況調査からは人手不足の声が聞かれ、求職者と求人者（企業）にとっての雇用環境にはギャップがあると考えられる。そこで、この春（4月）の採用において、県内の中小企業者が必要人員を充足できたか否か把握するため、業界組合に聞いてみたところ、次の通りであった。

- 全業種では、「充足しなかった」が67.4%で「充足した」（32.6%）よりも多かった。
- 製造業においても、全業種と同じ傾向で「充足しなかった」が多かったものの、その割合は低く54.5%であった。「充足しなかった」理由を見ると、“応募が少なかった”という理由はあるが、“業績が悪かった”や“応募はあったが希望した人材ではなかった”という理由が一定数見られ、これは求職者側ではなく求人者（企業）の都合で充足しなかったということであり、それが「充足しなかった」割合が低かった理由だと考えられる。
- 非製造業も、全業種と同様「充足しなかった」との回答が多く、製造業よりもその割合が高く81.0%であった。その理由を見ると、“業績が悪かった”という理由はあるが、“応募が少なかった”と“当業界に人気がない”という理由が一定数見られ、製造業とは異なり、求人するものの求職者が少ないようである。その理由としては中小小売業・サービス業・建設業には、“忙しい”、“休みがバラバラ”、“対個人サービス（おもてなし）”といった業界全体のイメージがあり、求職が少ないようである。

(2) 最近の採用状況（採用の難しさ）について

また、最近の採用状況（採用の難しさ）が以前と比較してどうか聞いたところ、全業種では「難しくなった」という回答が66.7%、「変わらない」という回答が33.3%、「容易になった」という回答は見られなかった。製造業と非製造業に分けて傾向を見ても、ほぼ全業種と同様であった。「難しくなった」理由は、製造業では“大手志向が強い”が多く、非製造業では“当業界に人気がない”が最も多かった。両業界で“大手志向が強い”が一定数見られ、経済の先行き不透明感が増す中、安定志向（大手志向）が強まっているようである。また、前問の「充足しなかった」理由と同様、非製造業の採用を難しくしているのは、景気や大手志向よりも、業界に対するイメージが影響しているようである。

① 4月の採用において必要人員を充足できたか？



② ①において「充足しなかった」理由

製造業

業績が悪かった	4
応募が少なかった	3
応募はあったが希望した人材でなかった	2
高校生の求職が少なかった	1
募集しなかった	1
コメントなし	1
その他	1

非製造業

応募が少なかった	7
業績が悪かった	3
当業界に人気がない	2
募集しなかった	1
コメントなし	4

③ 採用が「難しくなった」理由

製造業

大手志向が強い	5
高校生の求職が少ない	1
求職者が少ない	1
条件が合わない	1
他業界との賃金差が埋まらない	1
当業界に人気がない	1
その他	1
コメントなし	3

非製造業

当業界に人気がない	7
大手志向が強い	3
若年層の減少	3
景気が悪い	1
応募が少ない	1
条件が合わない	1
コメントなし	1